

【公開文書】

臨床研究「分娩前後の肛門機能の変化に関する疫学的調査」について

筑波大学附属病院消化器外科ならびに産婦人科では、標題の臨床研究を実施しております。本研究の概要は以下のとおりです。

①研究の目的

妊娠、分娩の際には、骨盤が広がることで骨盤の神経や筋肉が損傷したり、会陰切開などの処置が加わったりすることで、肛門括約筋や他の支持する筋肉が弱くなり、肛門失禁が起きやすくなることが知られています。しかし日本においては妊娠分娩後の肛門失禁に関する研究はほとんどありません。私共は、分娩後に生じた肛門失禁を早期に把握し、適切な治療や指導を行っていくことを目標に、消化器外科と産婦人科が協力して取り組むこととしました。この試験では、妊娠中と分娩後に肛門内圧測定と肛門失禁のアンケート調査を行います。これらにより分娩後にどのくらい肛門機能が低下したか、肛門失禁を生じたかが明らかになり、症状のある方々にすぐに治療や指導を行うことができると考えています。同時に、どのような妊婦さんに肛門失禁になるリスクがあるのか、ということも明らかにすることができ、広く妊娠・出産した女性のヘルスケアに貢献できると考えています。

②研究対象者

20歳以上の妊産婦さんで、試験について理解されている方。

③研究期間

2021年4月1日から2022年11月30日

④研究の方法

肛門内圧測定と肛門失禁スコア（アンケート調査）を(a)妊娠18週、(b)分娩した4-7日後、(c)分娩した4週後の、計3回行います。

⑤解析項目

肛門失禁スコア値の経時的変化

肛門内圧検査の計測値の経時的変化

肛門失禁スコア値と肛門内圧検査の計測値の相関

肛門失禁スコア値と肛門内圧検査の計測値と分娩に関わるパラメータの関連

抽出する被験者背景：被験者識別コード、性別、生年月日、人種、身長、体重、妊娠分娩歴、合併症、既往歴、分娩方法（経膣・帝王切開・鉗子分娩・吸引分娩等）、会陰切開の有無、会陰裂傷の有無、その他の分娩合併症、出生児体重等。

⑥ 本試験の責任医師

大原 佑介（筑波大学 医学医療系 消化器外科 講師）

⑦ 本研究への参加を希望されない場合

本研究への参加を希望されず、試料・情報の利用又は提供の停止を希望される場合は、下

記の問い合わせ先へご連絡ください。すでに研究結果が公表されている場合など、ご希望に添えない場合もございます。

⑧ 問い合わせ連絡先

筑波大学附属病院：〒305-8576 茨城県つくば市天久保 2-1-1

所属・担当者名：消化器外科 担当 大原佑介

電話: 029-853-3221 （消化器外科、平日 9:00～17:00）

029-853-3110 （救急外来、上記以外の時間帯）